

INFORMATION

プラネタリウム秋の番組

しし座流星群2001

日本でたくさんの流れ星が見られるかも知れないと予測する天文学者もいる今年の『しし座流星群』。流れ星やしし座流星群について、最新の学説を交えてご紹介します。

9月8日(土)→12月9日(日)

平日	16:00*	18:00 (9月中の金曜日のみ)
土曜日	13:30	17:30
日祝日	11:30	15:30

※9月中は生解説番組『今夜の星空』となります。

今夜の星空

今夜の星空の見どころを、生解説でたっぷりご紹介します。なお、9月は生解説番組・星空ライブトーク「ハッブル望遠鏡が見た宇宙」を放映します。

土曜日	15:30
日祝日	13:30

MUSIC PLANET ミュージック・プラネット

満天の星空と心地よいサウンドが織りなすファンタジックなひとときをどうぞ。

9月「谷山浩子特集」

10月・11月「坂田明のジャズ特集」

土曜日	19:00
	9月8日
	10月6・13日
	11月10・17日

■料金 (入館料を含みます)

大人400円/小・中学生150円/幼児50円

第2・4土曜日は小・中学生以下無料

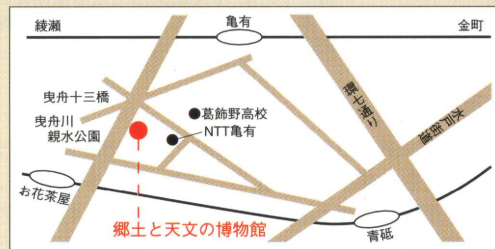
■休館日・休演日

月曜日 (祝日は開館)/第2・4火曜日

12月12日(水)~14日(金) (番組入替えのため)

■上映15分前までにご来館ください。

交通のご案内



■京成線 [お花茶屋] から8分

■JR常磐線 [亀有] から25分

■京成タウンバス
(有57 亀有-タウンバス車庫)
[共栄学園] 下車徒歩5分

■駐車場に限りがございます。
電車・バスをご利用ください。

インターネット・ホームページ <http://www.obs.misato.wakayama.jp/~katusika/index-j.html>

葛飾区



葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101

R100

このソフトは再生機能を使用しています。

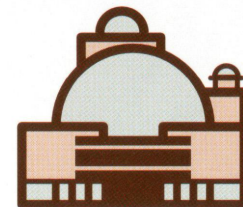


イラスト：高部哲也

PLANETARIUM

しし座流星群2001

Vol. 42 2001・秋



KATSUSHIKA CITY MUSEUM

2001年・秋の星空より

今年は飛ぶか!? しし座流星群。



スプラタリウムでシミュレーションした
2001年11月19日午前3時のしし座

■夜明けの空に駆け上がるライオン

今回は「秋の星座」ではなく、今年の秋に起きる天体ショーの舞台となる星座をご紹介します。そう、『しし座』です。

しし座は春の宵の空に見える星座ですが、秋には明け方の東の空高く輝いています。青白く輝く1等星・レグレスから始まる『?』マークを裏返しにしたような『ししの大鎌』が頭の部分。そこから胴体、尻尾と星をつないでいくと、力強く天へ駆け上がるようなライオンの姿を描くことができます。

ギリシア神話では、ネメアの谷に住む人喰いライオンの姿とされています。このライオンは勇者ヘルクレスによって退治されてしまうのですが、彼の手柄を記念して空に上げられたのだそうです。

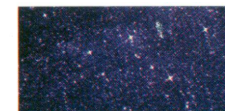
■『しし座流星群』に注目!

さて、この秋注目の天体ショーと言えば『しし座流星群』。今年の11月19日早朝、もしかしたらたくさんの流れ星が現れるかも知れないと予想されています。

流星群とは、毎年決まった時期に、星空のある一点(放射点)から流れ星が四方八方に飛ぶように見える現象です。この放射点がある星座の名前をとって、『○○座流星群』と呼ばれています。

しし座流星群の場合、『ししの大鎌』のあたりが放射点になります。でも、ここだけを見ている必要はありません。流れ星はここを中心に、空のあらゆる方向で見られるからです。

さあ、このしし座から流れ星の雨が降るかどうか、期待しながら待ちましょう。



なぜ、今年『しし座流星群』なの?

2001年11月19日未明、しし座流星群の流れ星がたくさん現れるのではないかとされています。確か1998年や99年のしし座流星群の時には『33年に1度の天体ショー』なんて言われていたのに、どうして今年になって、これだけ注目されているのでしょうか。



■33年ごと? きまぐれな流星雨

しし座流星群は毎年11月中旬に見られる流星群ですが、時には流れ星が雨のように降る『流星雨』となることがあります。

昔の記録を調べてみると、約33年ごとに流星雨が見られていたことがわかりました。たとえば1833年と、その33年後の1866年に流星雨がありました。ところが、その33年後の1899年には流星雨は見られませんでした。

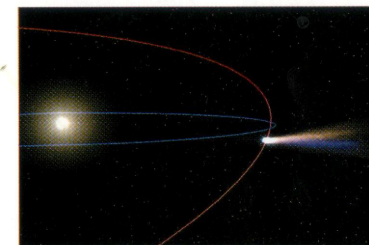
流星雨の予測は簡単にはいかないようです。

1833年、アメリカで見られた流星雨を描いた絵。
空が流れ星で埋めつくされたほどだったという。

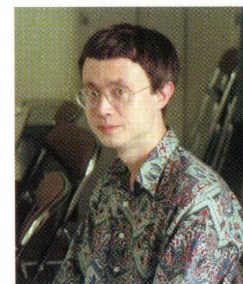
■流れ星は彗星から来ていた!

しし座流星群の流れ星のもととなるのは砂粒ぐらいの小さな天体です。この通り道(軌道)を調べてみると、33年ごとに太陽に近づくテンペル・タットル彗星の軌道と同じだったことがわかりました。この彗星の軌道には、彗星から吹き出したたくさんの物質が回っていたのです。そして、たまたま地球がこの物質の特に多い所を横切ると、流星雨になるのです。

ところが、流れ星のもとがどのあたりに多くあるのかが、これまではっきりとわかりませんでした。このため、流星雨の予測がうまくできなかったのです。



テンペル・タットル彗星の軌道(赤い線)のあたりには、流れ星のもととなる物質がたくさんあり、そこに地球(青い線が地球の軌道)がさしかかると流星群になる。



デビッド・アッシャー博士

■流星雨は予測できる?

アイルランドの天文学者・アッシャー博士は、彗星の軌道のどこに、流れ星のもととなる物質が多く集まっている部分(ダストトレイル)があるのかを正確に計算する方法を考えました。この方法で1998年、1999年、2000年のしし座流星群の現れる時刻を予測したところ、それがほぼ的中してしまったのです。

さらにアッシャー博士は、今年のしし座流星群では11月19日の午前2時31分と午前3時19分(日本時間)をピークに、かなりの数の流れ星が見られると予測しています。

もしかすると今年、一生に一度見られるかどうかという流星雨を見ることができるかも知れません。